

東京学芸大学 ヒューマンライブラリー

2024



東京学芸大学 playground ラボ

ヒューマンライブラリーは、在日外国人、障がい者、セクシュアルマイノリティなど、生きている「本」と「読者」との対話を通して、多様な生き方を認め合う、多様性に開かれた社会の実現を目指すイベントです。生きた「本」のタイトル、あらすじは、本らし 2, 3 ページにあります。5 冊まで本を借りられ、30 分ずつお話しできます。下記予約フォームで希望する「本」を予約してください。

日時：12月8日（日）12:30～17:30

場所：東京学芸大学 N 棟（中央 4 号館）3 階教室

主催：東京学芸大学ヒューマンライブラリー2024 実行委員会（代表：岡 智之）

後援：小金井市教育委員会、小金井市社会福祉協議会

協賛：東京学芸大学教職員組合

問合せ先：東京学芸大学国際交流／留学生センター 岡 智之

okatom@u-gakugei.ac.jp

予約フォーム：<https://forms.office.com/r/gzpgzyKVxD>

申し込み締切：定員が埋まり次第締め切ります。先着順で一回のセッションの「本」一冊につき、5 人まで一緒に参加できます。

東京学芸大学ヒューマンライブラリー
2024申し込みフォーム



東京学芸大学ヒューマンライブラリー2024「本」のタイトル、あらすじ一覧

*下記の「本」を5冊まで借りられ、30分ずつ対話できます。

作者名	カテゴリー	タイトル	あらすじ
中嶋秀昭 <オンライン>	災害対応支援（世界の医療団）	洪水と気候変動— Bangladesh の事例から	9月に能登で洪水が発生しましたが、世界中の各地が洪水に見舞われています。私が支援に携わっている Bangladesh でも600万人近くが被災した大洪水が起きました。洪水被害にも社会的・経済的要因が絡み、これは「複合災害」になり得ます。また、洪水のような自然災害は気候変動によって日本を含めた世界中で今後さらに多発・深刻化することが懸念されます。現地での被災者支援に基づき、現地の現状を例としてお話しします。
朴梨香 （ばく・りひやん） <NEW>	在日朝鮮人	在日朝鮮人である私について	私は日本で生まれ育った在日朝鮮人3世です。祖父が1930年代に日本に渡ってきたことがルーツです。そんな私は小学校から高校まで朝鮮学校に通いました。私が自分の民族的アイデンティティについてどのように考えてきたのか、今どのように考えているのかを話せればと思います。
長江春子	中国帰国者2世	日本と中国の狭間に生きて	中国残留日本人孤児2世という宿命に翻弄され、特に中学から大学までの10年間、中国人と日本人という二つのアイデンティティ、言語や文化の壁、貧困、偏見や苛めに苦しみました。一方で多くの方々から助けられました。そうした経験から学んだことも多く、今の生き方につながっています。長年蓋してき辛い体験でも若い方々の「平和の学び」につながればと、近年自伝『小春のあしあと』（Amazon）を自費出版したりHLに参加したりと自己開示中。
小室敬子 <NEW>	難民の子供（クルド日本語教室）	クルド難民の子供はどうやって「日本」を学ぶか？	親の都合で日本に連れてこられたクルド人の子供たちは、日本で日本語と日本の生活をどのように学ぶか。小学1年生の日本語ゼロの子供たち。中学生になってから日本に来た子供たちは日本語を使えるようになるのか。高校に進学することが出来るのか。自分たちの人生を日本で切り開いていくことが出来るのか。
アスティ <New>	インドネシア人留学生教育支援	私が日本語を学ぶことになった理由	インドネシアの農村に生まれた27歳の国費留学生です。イスラム教の価値観では、女性は中学を卒業して結婚し、男性は工場や農業で働きます。そんな考え方に疑問を持った私は、両親を説得して高校進学します。当時、高校の先生が唯一、私の話が分かってくれる大人でした。その時、日本語の先生に出会い、その先生の教え方が一番印象的で日本語に興味を持ちます。大学進学は親に反対されたため、先生方の金銭支援で大学に進学します。その後国費奨学生になり大学生活を続け、新しい世界が広がりました。将来は村の子供たちに高校進学のための教育基金を作りたいと思っています。
チャンハールオン <NEW>	ベトナム人留学生	異国での子育てと学業の両立	2012年から日本語を学び、今回は進学のために5回目の来日をしましたが、出発直前に妊娠が判明しました。日本での出産と子育てを一人でしながら学校に通う決意をし、慣れない環境での妊娠・出産や文化の違い、孤独感と向き合いながら学業と仕事を両立する毎日です。しかし、日本の方々からの温かい支援が心の支えとなり、ここまでやってこられました。この助けがなければ、困難を乗り越えるのは難しかったと感じています。

いちまるのり	LGBT	私はXジェンダー(性自認についてのあれこれ)	普段は、自分の性自認についてあまり意識せず生活しています。(職場では、管理職にカミングアウトしています)たま〜に、不思議な出来事が起こります。
りゅーや	LGBTQ (ゲイ)	同性パートナーの親の介護を体験して感じたことや考えたこと	2年前まで同性パートナーの父親の介護をキーパーソンとしてしていました。パートナーの父親は私の方の関係について知っていましたが、本人としては地域や知り合いには知られたくない気持ちがずっとありました。私は以前、高齢者の介護の仕事をしていましたが、パートナーの親の介護という貴重な体験を通して感じたことや考えたことを今回はお話ししたいと思います。
ひらり	LGBTQ	トランスジェンダー女性 レズビアン(「T」且つ「L」)の苦悩	「体の性が男性で恋愛対象が女性」という、傍目からはごく普通の男性にしか見えない、結婚も子作りも可能な私。しかし、トランスジェンダー女性「T」且つレズビアン「L」といった複数のマイノリティ性をあわせ持つダブルマイノリティの存在やニーズが世間ではあまりよく知られていないために、その稀有な生きづらさを気軽に相談できる相手がほとんどおらず、生活場面では一人で思い悩むことも多々あります。
及川澄志 (おいかわきよし)	聴覚障害	聴覚障害者の世界の一端	日本には約29万人の聴覚障害者が存在しており、その数だけ一人一人の聞こえ方が違います。また、コミュニケーションの手段もまちまちです。ここでは、どんな聞こえなのか?聴覚障害者のコミュニケーションとは?といったお話をさせていただきます。
大谷重司 (おおたにじゅうじ)	視覚障がい	ベンチプレス世界チャンピオンの実態	1.現役の健常者チャンピオンは眼が見えない66歳の男です。一昨年の3月の全国大会でも健常者の試合で優勝。 2. いろんな場面で視覚障害者は世間から分離されています。図書館でも点字図書。スポーツをするにも障害者専用のスポーツセンターがあります。その実態に疑問を持ち続けていました。 3. 町内でのスポーツジムへの参加。これだけで喜びは完結していました。 4. 可能性を見つけられたこと。限界を捨てることの意識の変化。
小山祐介 (コヤ)	うつ病当事者	うつになったあのとときと、いまとこれから	システムエンジニアとして勤めていた24歳のとき、残業100時間以上の超過労働、常駐先のパワハラが引き金となって鬱を発症しました。10回近く転職、たくさんの人に手を差し伸べてもらってアートやエンタメの活動をしていた結果、実体験を活かした起業の機会をいただくも、挫折。うつ病当事者であり、支援者として障害者グループホームで働きながら気づいたこと、いま自分の中にある葛藤とこれからしていきたいこと、お話しします。
浜田有子	高次脳機能障害・失語症	隠れた障害、見えない障害。その心は?	障害者としてオープンにするか、クローズにするか。その悩みを「分かりにくい」方々とたくさん出会ってきました。私は過去、脳梗塞で長期入院し、リハビリを経て今は高次脳機能障害・失語症と同名半盲です(意思疎通はしっかり話せるので安心して下さい)。日本の障害者法的雇用は2.5%に引き上げられ、良い事だけけど中々難しいもの。障害者として働いている当事者をリアルでお伝えします。